

# 日航ジャンボ機墜落事故から27年

## 今年も柔整師が慰霊登山をサポート

8月12日、520人が犠牲になった日航ジャンボ機墜落事故から27年を迎えた。遺族たちが慰霊登山に集まった群馬県上野村の墜落現場「御巢鷹の尾根」では、今年も社団J B日本接骨師会会長の五十嵐仁氏を中心とする柔道整復師ら10名が救護ボランティアと登山道パトロールを行った。

東京、千葉、神奈川、埼玉から集まったボランティアのメンバーは朝5時に御巢鷹山のふもとを出発、6時前には登山口に救護テント設営を終えた。「今年もお願いします」とテントを訪れる遺族たちにテーピン

グやマッサージ、捻挫の治療などを行い、「来年も、またお会いしましょう」と声を掛けた。事故から四半世紀以上が過ぎて遺族たち

の高齢化が進み、杖を手に一歩一歩踏みしめるように登る人の姿が目立った。一方、犠牲者の孫など、若い世代の登山者が増え、犠牲者への祈りと空の安全を願う気持ちは、次の世代に受け継がれている。

御巢鷹の尾根に黙祷を捧げるボランティアのメンバー



写真右=五十嵐氏(右)と日航の植木義晴社長  
写真左=慰霊登山者の足関節捻挫を応急処置